

生徒が地域で活躍するために必要な力と支援

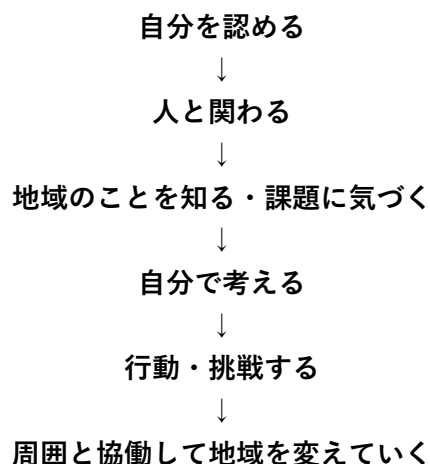
1. 生徒が地域で活躍するために必要な力

付箋の意見は、大きく **5つの力** にまとめられます。

大きな力	含まれる意見・キーワード
① 自分を理解し、信じる力	自己肯定感、自分の価値を認める、自分の考えをもつ、自分を表現する、自信をもつ
② 人とつながり、協働する力	コミュニケーション力、相手を理解する力、人の話を聴く力、他者を尊重する、多様な人と関わる、協力する
③ 主体的に動く力	主体性、行動力、挑戦する力、まずやってみる、失敗を恐れない、最後までやり抜く
④ 地域・社会に関わる力	地域への関心、地域を知る、地域の人とのつながり、社会の課題に気づく、地域をよりよくしたいという思い
⑤ 考え、創り、発信する力	課題発見、課題解決、考える力、アイデアを出す力、発信力、企画する力、柔軟に考える力

特に重要な関係

今回の付箋を見ると、単に「コミュニケーション能力が必要」という話ではなく、



つまり、「地域で活躍する生徒」とは、単に地域活動に参加する生徒ではなく、**自分の思いや考えを持ち、それを人と共有しながら、地域の課題に主体的に関わることのできる生徒**と整理できそうです。

2. 地域で活躍するために必要な支援

こちらは、主に **6つの支援** に整理できます。

大きな支援	含まれる意見・キーワード
① 安心して挑戦できる環境	失敗してもいい、安心して参加できる場、否定されない、挑戦を認める、心理的安全性

② 人とのつながり・伴走者	相談できる人、大人とのつながり、地域の人との関係、話を聴いてくれる人、伴走してくれる大人、ロールモデル
③ 地域と出会う機会	地域活動への参加、地域の人と関わる機会、実際に地域に出る、地域の課題を知る、学校外での体験
④ 生徒の主体性を尊重する支援	生徒の意見を聴く、生徒自身に任せる、生徒の「やりたい」を大切にする、大人が答えを与えすぎない
⑤ 情報・資源・制度による支援	活動情報の提供、活動場所、資金・物品、交通手段、活動を始めるための情報や仕組み
⑥ 学校・家庭・地域の連携	学校と地域とのつながり、家庭との連携、地域団体・行政等との連携、大人同士のネットワーク

3. 「力」と「支援」の関係

今回の熟議で特に大事なのは、「生徒に力をつけさせる」だけではないという点だと思います。

整理すると、次のような構造になります。

生徒が地域で活躍する



生徒自身に必要な力 + 周囲からの支援



「やってみたい」が生まれる



地域と出会う



挑戦・実践する



失敗・対話する



学び・成長する



次の地域活動につながる

「生徒自身に必要な力」

- 自己理解・自己肯定感
- コミュニケーション
- 主体性・行動力
- 地域への関心
- 課題発見・解決
- 発信・協働

「周囲からの支援」

- 安心して挑戦できる場
- 相談できる大人
- 地域との出会い
- 情報・資源
- 生徒の主体性を尊重
- 学校・家庭・地域の連携

4. 熟議全体から見える「核」

付箋を横断して見ると、かなり繰り返し出ているのが、「**自己肯定感 × 人とのつながり × 主体的な挑戦**」の3点です。

特に、「**自分で考えて、自分で動く**」だけではなく、「**人と関わりながら、自分の考えを実現していく**」ことが重視されています。

また、支援については、「**大人が生徒のために何かをしてあげる**」という支援だけでなく、「**生徒が自分で動けるように、環境を整え、伴走する**」という考え方が多く見られます。

5. 熟議の結論として

生徒が地域で活躍するためには、自己肯定感を土台として、自分の思いや考えを表現し、他者と対話・協働しながら、地域の課題や魅力に気づき、主体的に行動する力が必要である。

そのためには、生徒自身の力を伸ばすだけでなく、安心して挑戦できる場、相談・伴走してくれる大人、地域と出会う機会、必要な情報や資源、そして生徒の主体性を尊重する学校・家庭・地域の環境づくりが重要である。

「生徒を地域で活躍させる」のではなく、「生徒が自ら地域に関わり、挑戦できる環境を地域全体でつくる」という視点が重要である。